

# 日本バルブ工業会が70周年

## 新中計“V80”始動

### 一層の満足度向上へ

日本バルブ工業会(西岡利明会長)は6日、都内で第12回通常総会・創立70周年祝賀会を開催。来賓を含め、約300人が参加。実行委員会の企画のもと、多彩なイベントが催された。前期の中期活動計画はほぼ目標通りの成果を挙げ、今年度からの新計画「V80」その「STAGE I」(2024-2026)が「会員の期待以上に満足度の高い工業会を目指して」の目標のもと始動した。工業会の活動に今後も期待が集まる。



西岡会長



橋本審議官

総会では、昨年度の事業を報告し審議。うち、水栓部会では、「戸別給水用減圧弁の使用年数分イドライン」制定に向けた審議、海外の飲料水規制・化学規制と代替技術の調査、逆流防止に関するEN規格などの海外規格および国内実態の調査、水栓のLCA構築に向けたWGの設置等を行

った。「次世代につながる新しい働き方への転換」としては、関連技術の知識習得を目的とした「バルブ塾」やシニア人材の再

活躍に向けた意見交換会を開催。「バルブ女史ネットワーク」メンバーと会員企業女性社員との意見交換会も実施した。環境分野では、欧州で

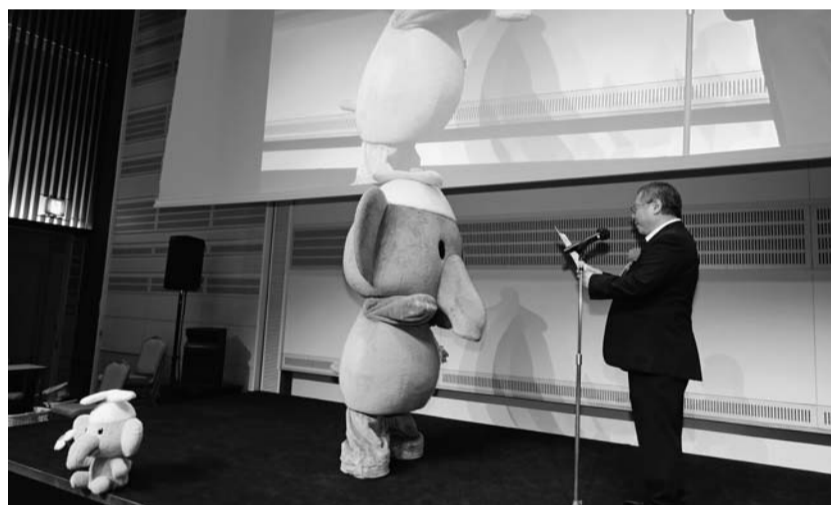
提起されたPFAS制限案への対応のため、環境



経営者と若手のパネルディスカッション



好評だった蝶花楼桃花さんの特別講演



「はるちゃん」に感謝状を贈呈



バルブ女史ネットワークがエクササイズ披露

委員会内に化学物質対策専門チームを設置。欧州化学品庁(ECHA)に、制限適用開始の猶予期間延長(用途によっては適用除外)を求めるパブリックコメントを提出した。省エネ推進セミナーの開催、CO2削減目標の検討等も行った。

昨年度は7社が入社。年度末の会員数は186社となった。今年度からは、新中期計画「V80」の計画期間10年間のスタート。その「STAGE I」は2024-26年度を計画期間とし、「会員の期待以上に満足度の高い工業会を目指す」の目標のもと、「サステナブルなバルブ業界へ」「次世代人材育成と働きやすい職場へ」「情報・事業の活性化に

よる認知度・満足度向上」「業界ネットワーク、産官連携強化による地位向上」の4題の重点課題の実現に努める。CO2は、2030年度に13年度比で46%の削減を工業会として目指すと宣言し、今後、会員のサポートに努める。

また、若手・次期経営者からなる「清流会」が寄付事業を始める。激甚災害からの復興のための寄付に加え、計画的な事業として、愛知県・地球博記念公園(モリコロパーク)に3年かけて植樹し「バルブの森」を作

ることを決定した。植樹場所は、ジブリパークの中で「ジブリの大倉庫」「魔法の谷」への導線に当たる、一般へのPR効果が高い箇所という。樹

中計は10年の計画期間を三つに分け、その最初のステージでは大所帯になった工業会の会員の皆さまの満足度向上・地位向上に努める。皆さまも工業会でもやりたいことをど

種は、名前に「水」が入るハナミズキ。7月25日には同公園で植樹セレモニーを行う。

元会長の中村善典氏(金子産業)に経済産業大臣表彰、前会長の堀田康之氏(キッツ)が製造産業局長表彰を受けた。

冒頭、西岡会長は「昨年度も会員数が増え、ひたすら前と比べると大所帯になってきた。これもバルブがさまざまな産業分野で活躍している証と想う。また、昨年度までの中期計画「V70」は目標をほぼ達成できた。次の中計は10年の計画期間を

三つに分け、その最初のステージでは大所帯になった工業会の会員の皆さまの満足度向上・地位向上に努める。皆さまも工業会でもやりたいことをど

んと意見として出していただければ」とあいさつ。来賓として、経済産業省製造産業局の橋本真吾審議官(同局担当)が「本日は、若手の方のバネルディスカッションがあることだが、若い時からこうした工業会の活動に関心を持って参加されることは大変に喜ばれます。工業会の数十年後の一層の発展にもつながっていくものと考えている」と祝辞を述べた。

市民に安心・安全な『命の水』を届けます

## 全国管工事業協同組合連合会

(略称:全管連、国土交通大臣認可団体)

会長 藤川幸造

〒170-0004 東京都豊島区北大塚 3-30-10 全管連会館  
TEL 03-5981-8957 FAX 03-5981-8958  
URL <https://zenkanren.jp>

業界PR動画・漫画はこちらから

[本編] [ダイジェスト] [漫画]